

2020年3月期第3四半期 連結決算補足情報

パーソルホールディングス株式会社
2020年2月14日

本資料の構成

1. 2020年3月期第3四半期 連結決算概要
2. 2020年3月期第3四半期 セグメント別業績

2020年3月期第3四半期 連結決算概要

2020年3月期第3四半期(累計)決算ハイライト

- 売上高は、国内の派遣・BPOおよびリクルーティングセグメントを中心に前年同期比で増収した一方、営業利益は、海外事業で赤字を計上し減益。最終損益は、第2四半期における特別損失計上が影響し、純損失に

- 売上高 7,211億60百万円 (前年同期比+5.2%)
- 営業利益 284億03百万円 (同△11.4%、営業利益率3.9%)
- 親会社株主に帰属する四半期純損失 △6億円54百万円
- 2019年11月12日公表の通期業績予想は変更なし

トピックス

- 国内**：同一労働同一賃金に向けた顧客企業への交渉は一巡し、大手顧客を中心に概ね理解を得ているが、中小、地方顧客との交渉は継続中。5月中旬の決算発表において来期の見通しを正式に開示予定
- 海外**：PERSOLKELLYの豪州におけるシステムトラブルは2019年12月に終息するも、事業体制の再構築が急務。PROGRAMMEDは新経営体制がスタートし、Staffing事業の強化を推進
- 全社**：新たな中期経営計画を5月中旬に発表予定

四半期業績推移

- 第3四半期は、「an」事業のサービス終了（2019年11月）による減収（リクルーティングセグメント）および海外事業の為替影響により売上高成長率が鈍化
- 営業利益は、「an」事業のサービス終了、海外事業の低迷に加え、新規事業の先行投資もあり減益

（単位：百万円）

	FY2018				FY2019		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
売上高	225,929	226,330	232,971	240,586	235,218	243,738	242,204
YoY(%)	39.6%	39.0%	36.8%	5.9%	4.1%	7.7%	4.0%
営業利益	11,530	8,922	11,620	12,036	10,057	10,058	8,287
営業利益率(%)	5.1%	3.9%	5.0%	5.0%	4.3%	4.1%	3.4%
EBITDA	15,401	12,795	15,533	16,242	14,416	14,532	12,410
EBITDA Margin(%)	6.8%	5.7%	6.7%	6.8%	6.1%	6.0%	5.1%
親会社に帰属する 四半期純利益	6,631	5,355	6,750	5,622	5,466	△10,643	4,522

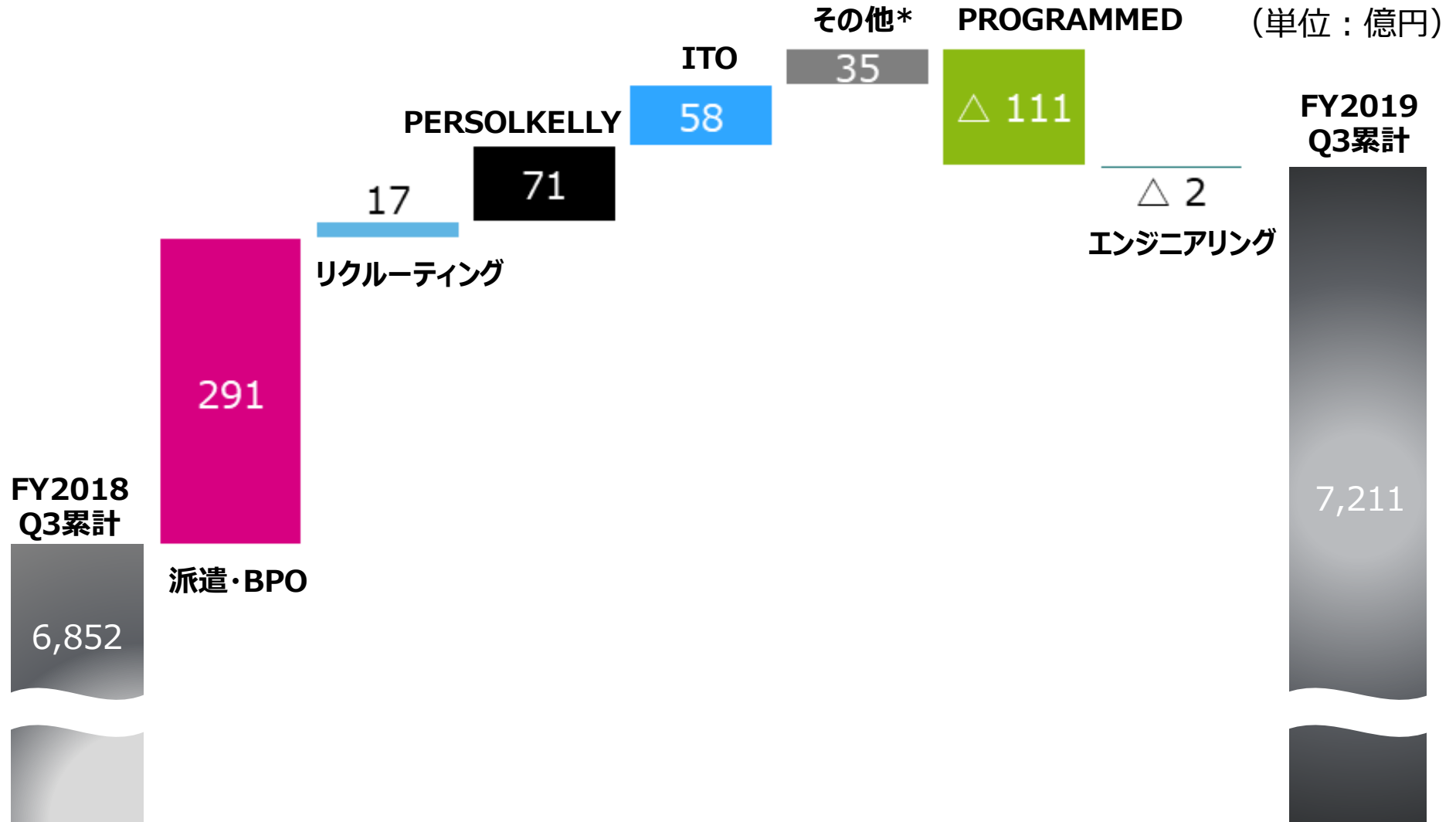
第3四半期(累計)要約損益計算書 (前年同期比)

(単位：百万円)

	9ヵ月		前年 同期比	(ご参考) 通期予想	進捗率
	FY2018	FY2019			
売上高	685,231	721,160	5.2%	980,000	73.6%
営業利益	32,074	28,403	△11.4%	40,700	69.8%
EBITDA	43,730	41,358	△5.4%	58,000	71.3%
特別損益	64	△ 17,234	-	-	-
親会社帰属当期純 利益	18,738	△ 654	-	5,500	-
調整後EPS (円)	110.47	95.80	△13.3%	141.33	67.8%

第3四半期(累計)売上高セグメント別増減

- 主力の派遣・BPOセグメントが増収を牽引。PROGRAMMEDセグメントは、為替の影響を受け減収

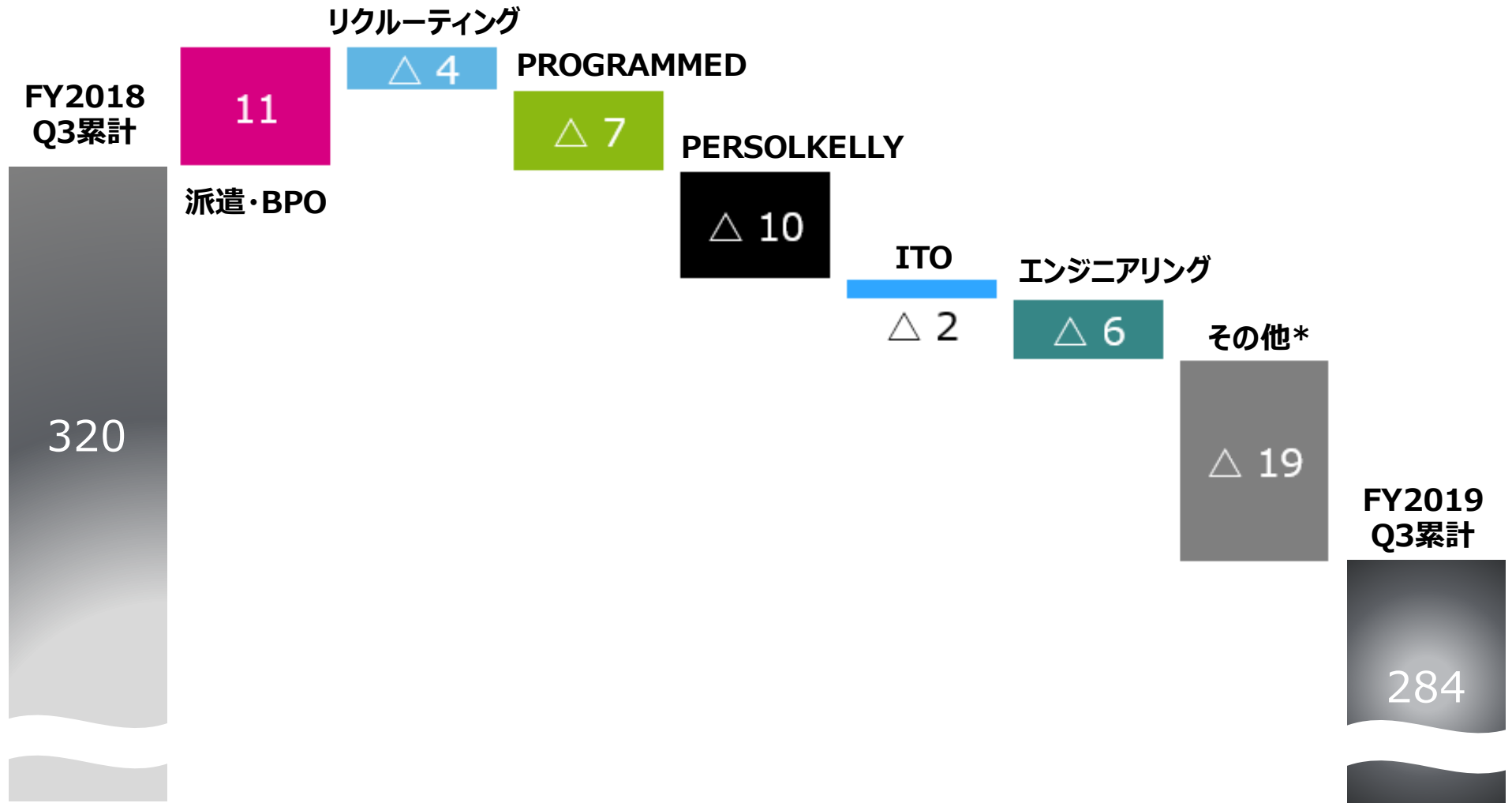


*「その他」はその他セグメントと調整額の合算

第3四半期(累計)営業利益セグメント別増減

- 派遣・BPOセグメントを除く、全てのセグメントで減益。「その他」は新規事業への投資コスト等を計上

(単位：億円)



*「その他」はその他セグメントと調整額の合算

2020年3月期第3四半期 セグメント別業績

派遣・BPOセグメント

派遣・BPO



- 当第3四半期は、稼働日が1日減少するもM&A効果に加え、稼働者数増加により増収幅が拡大

(単位：百万円)

	FY2018 (実績)		FY2019 (実績)				9ヵ月 (実績)		通期予想
	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	FY2018	FY2019	FY2019	
売上高	129,927	131,103	131,429	135,457	140,693	378,435	407,580	552,000	
YoY(%)	5.0%	7.6%	5.2%	9.6%	8.3%	5.3%	7.7%	8.3%	
営業利益	6,904	5,976	6,311	5,694	7,111	18,015	19,117	27,500	
OPM(%)	5.3%	4.6%	4.8%	4.2%	5.1%	4.8%	4.7%	5.0%	
EBITDA	7,849	7,074	7,310	6,717	8,122	20,850	22,150	31,400	
EBITDA Margin(%)	6.0%	5.4%	5.6%	5.0%	5.8%	5.5%	5.4%	5.7%	
稼働日数 (日)	62	57	59	59	61	183	179	237	

- 無期契約となったスタッフの増加および積極的な営業活動が奏功し、稼働人数の積み上げに寄与
- 当期の無期化人数は、5,000人の計画に対し、順調に進捗
- 売上高増加要因（前年同期比）：M&A効果（アヴァンティスタッフ）+3.3%、オーガニック成長+5.0%（内、稼働日影響、△1.6%、稼働スタッフ人数増+6.3%、単価アップ+2.3%、その他要因△2.0%）
- その他要因：景気影響を受けエンジニア派遣領域において稼働時間短縮や稼働率の低下、および企業の採用意欲の低下によるスタッフ紹介売上が減少し、売上高総利益率も若干悪化

リクルーティングセグメント

- 当第3四半期は、「an」のサービス終了に加え、景気影響を受け減収・減益

(単位：百万円)

百万円	FY2018 (実績)		FY2019 (実績)			9ヵ月 (実績)		通期予想
	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	FY2018	FY2019	FY2019
売上高	21,207	23,577	23,549	22,259	18,114	62,249	63,923	84,000
YoY(%)	21.9%	17.3%	13.6%	9.6%	△14.6%	18.0%	2.7%	△2.1%
営業利益	3,210	4,784	4,703	4,393	1,271	10,770	10,367	13,600
OPM(%)	15.1%	20.3%	20.0%	19.7%	7.0%	17.3%	16.2%	16.2%
EBITDA	3,920	5,521	5,414	5,146	2,047	12,860	12,607	17,600
EBITDA Margin(%)	18.5%	23.4%	23.0%	23.1%	11.3%	20.7%	19.7%	21.0%

- 「an」事業から異動した社員の戦力化には一定時間が必要のため、当四半期の人件費比率が上昇
- 景気の先行き不透明感から採用に慎重になる顧客が増加し、人材紹介の決定率が低下

PROGRAMMEDセグメント

- 当第3四半期も豪州経済の低迷が続き、Staffing事業は低調。一方、Maintenance事業は堅調に推移
(単位：百万円)

	FY2018 (実績)		FY2019 (実績)			9ヵ月 (実績)		通期予想
	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	FY2018	FY2019	FY2019
売上高	48,866	50,145	46,444	48,160	45,589	151,331	140,194	192,000
YoY(%)	-	△8.0%	△9.8%	△5.5%	△6.7%	-	△7.4%	△4.7%
営業利益	18	604	73	△215	△360	237	△502	0
OPM(%)	0.0%	1.2%	0.2%	△0.4%	△0.8%	0.2%	△0.4%	0.0%
EBITDA	1,463	2,061	1,893	1,570	980	4,660	4,445	6,700
EBITDA Margin(%)	3.0%	4.1%	4.1%	3.3%	2.1%	3.1%	3.2%	3.5%
豪GDP成長(%)	2.6%	2.2%	1.7%	1.4%	1.7%	-	-	-
為替 (円/AUD)	83.1	82.6	78.5	77.7	76.3	83.1	76.3	-

- セグメント売上高は、為替影響により△6.7%（現地通貨ベースでは、全体+3.8%、内、Staffing事業△4.1%、Maintenance事業+13.5%）
- Staffing事業は、新規顧客施策等の営業強化により、派遣スタッフ数の稼働人数は前期水準まで戻る
- Maintenance事業は、上期低調であったProperty Services事業の収益貢献が増加。Facility Management事業は+29.8%と、成長を継続
- 一過性の人件費（約3.6億円）をQ3に計上

PERSOLKELLYセグメント

- 当第3四半期は、派遣事業が好調で売上高は増収。豪州のシステムトラブルによる売上減少および費用計上により、営業利益は損失に

(単位：百万円)

	FY2018 (実績)		FY2019 (実績)			9か月 (実績)		通期予想
	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	FY2018	FY2019	FY2019
売上高	19,372	20,611	20,568	21,423	20,650	55,495	62,642	85,000
YoY(%)	16.3%	19.0%	19.2%	13.5%	6.6%	14.5%	12.9%	11.7%
営業利益	290	△98	△230	88	△214	647	△356	△800
OPM(%)	1.5%	△0.5%	△1.1%	0.4%	△1.0%	1.2%	△0.6%	△0.9%
EBITDA	479	148	△19	297	△20	1,199	257	△300
EBITDA Margin(%)	2.5%	0.7%	△0.1%	1.4%	△0.1%	2.2%	0.4%	△0.4%

- 売上高の大きいシンガポール、マレーシア、香港の派遣事業が好調。中国・豪州を除く地域で2桁の成長を維持
- 一方、豪州における売上高は、引き続き経済成長の低迷およびシステムトラブルの影響を受けて大幅に減少
- 営業利益は、豪州のシステムトラブルに係る人件費の増大と未回収債権に対する引当金の積み増し、および中国事業において、米中貿易摩擦の影響を受け、人材紹介が減収となり、損失計上
- 豪州のシステムトラブルは2019年12月に終息するも、体制の再構築が急務

- 当第3四半期も、旺盛なITソリューション需要によって、売上高成長率は高い成長率を維持

(単位：百万円)

	FY2018 (実績)		FY2019 (実績)			9ヵ月 (実績)		通期予想
	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	FY2018	FY2019	FY2019
売上高	8,496	9,775	8,986	10,292	10,420	23,869	29,698	41,500
YoY(%)	13.7%	22.4%	25.1%	25.7%	22.6%	13.6%	24.4%	23.4%
営業利益	388	857	△345	467	538	844	660	2,200
OPM(%)	4.6%	8.8%	△3.8%	4.5%	5.2%	3.5%	2.2%	5.3%
EBITDA	615	1,059	△96	720	836	1,430	1,460	2,900
EBITDA Margin(%)	7.2%	10.8%	△1.1%	7.0%	8.0%	6.0%	4.9%	7.0%

- 引き続き、クライアント企業のIT投資意欲は旺盛で引き合いが強く、売上高は増収
- 給与水準引き上げに伴うコスト増加があるものの、請求単価が改善されたことにより、営業利益率は改善
- 第1四半期に発生したシステム開発に伴う赤字案件が響き、第3四半期累計では営業利益率が低下

エンジニアリングセグメント

- 当第3四半期も、米中貿易摩擦の影響による主要クライアントからの受注減少を補填しきれず、減収減益

(単位：百万円)

	FY2018 (実績)		FY2019 (実績)			9か月 (実績)		通期予想
	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	FY2018	FY2019	FY2019
売上高	7,720	7,986	6,373	7,435	7,378	21,371	21,187	29,800
YoY(%)	8.9%	4.5%	△1.0%	3.1%	△4.4%	6.0%	△0.9%	1.5%
営業利益	938	945	11	658	584	1,816	1,253	2,100
OPM(%)	12.2%	11.8%	0.2%	8.9%	7.9%	8.5%	5.9%	7.0%
EBITDA	1,092	1,100	113	767	694	2,266	1,574	2,600
EBITDA Margin(%)	14.1%	13.8%	1.8%	10.3%	9.4%	10.6%	7.4%	8.7%

- 米中貿易摩擦の影響により、自動車関連企業を中心とした主要クライアントからの需要が弱まり、売上高は減収
- 営業利益は、受注減少による稼働率の低下により、約3割減と大きく悪化
- 新規顧客開拓は着実に進歩しているものの、業績への貢献には一定の時間を要する

その他セグメント

- 当第3四半期も、新規事業“ミイダス”が好調に推移し、概ね計画通り

(単位：百万円)

	FY2018 (実績)		FY2019 (実績)			9か月 (実績)		通期予想
	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	FY2018	FY2019	FY2019
売上高	1,600	1,531	2,486	3,545	4,144	4,219	10,176	15,000
YoY(%)	39.6%	25.9%	75.3%	195.7%	158.9%	35.1%	141.2%	160.8%
営業利益	△52	△383	△196	△410	△255	△175	△862	△1,300
OPM(%)	△3.3%	△25.0%	△7.9%	△11.6%	△6.2%	△4.2%	△8.5%	△8.7%
EBITDA	△31	△360	△142	△275	△88	△116	△506	△1,100
EBITDA Margin(%)	△1.9%	△23.5%	△5.7%	△7.8%	△2.1%	△2.8%	△5.0%	△7.3%

- 当期より“ミイダス”がリクルーティングセグメントより移管
- “ミイダス”の直販が好調に推移し始めているが、セグメント全体では投資先行局面のため、利益貢献には至らず

調整額（コーポレートおよび連結調整）

- 当第3四半期は、期初の計画通り、AI活用に向けたDX投資や、イノベーションへの投資を積極的に実施

（単位：百万円）

	FY2018（実績）		FY2019（実績）			9か月（実績）		通期予想
	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	FY2018	FY2019	FY2019
売上高	△4,220	△4,143	△4,619	△4,837	△4,787	△11,739	△14,242	△19,300
YoY(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
営業利益	△78	△648	△269	△617	△388	△83	△1,274	△2,600
OPM(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
EBITDA	144	△365	△56	△412	△161	577	△630	△1,800
EBITDA Margin(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

- 事業拡大に伴い、セグメント間の取引、コーポレートの経営管理料等の内部取引の消去が増加
- その他セグメントのパーソルイノベーション株式会社へ、DXやイノベーションに関する研究開発投資を委託しているため、期初予定通り、営業損失を計上（DXやイノベーション投資額はQ3累計で14.6億円を計上）

当資料取り扱い上の注意

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が2020年2月14日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる場合があります。

本資料に含まれる数値、指標は、当社グループの経営成績及び財政状態に関して、適切な理解を促進する事を目的として開示しており、すべての数値、指標が監査法人による監査またはレビューの対象ではない点にご留意ください。